

## 学校歯科健診

### (1) 目的

むし歯などを精密に検査診断する健診ではなく正常な発育をしているか、健康であるかの診査を行うことを目的にしています。

1) 健診は健康状態をふるい分けてリスク因子の抽出とその後の適切な保健指導と保健管理を実施するために行っています。

2) 医学的な立場からの確定診断を行うものではありません。

ふるい分けは疑いのあるもの、問題のあるものを集団の中から選び出すためのものです。

スクリーニング(ふるい分け)について  
学校での健診は、歯及び口の健康状態を「健康」、「要観察」、「要医療」の3段階にふるい分けして健康状態を把握するものです。

- ① 自分の歯や口の健康状態を把握する
- ② 健康診断で見つかった課題を健康教育、健康管理に生かす
- ③ 自律的な健康管理を目指す

### (2) 事前準備

職員の皆さんへ

健診の意義、目的について職員の共通理解を図り生徒、保護者の方への事前説明を行ってください

生徒・保護者の皆さんへ

健診の趣旨や内容について理解していただくように説明をしてください。

健診日は口の中がよく見えるように特に歯磨きを念入りにお願いします。

### (3) 健診項目

#### 1.顎関節の異常



#### 2.歯並び・かみ合わせ



#### 3.歯垢の状態



#### 4.歯肉の状態



#### 5.むし歯の状態



#### 6.その他の異常



## (4) 問題点

健診の結果とかかりつけ医の診断は必ずしも一致しないので精密検査はかかりつけの医療機関で行って下さい。



このように歯と同じ色の詰め物では治療の跡がわからない場合があります

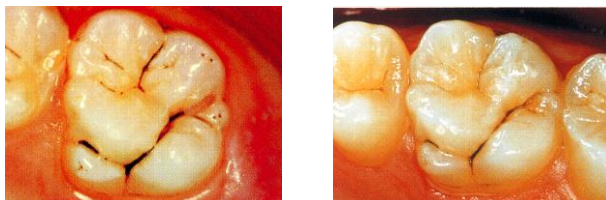
スクリーニングの分類は次の3つに分けています

「異常なし」0:

指導や予防処置で健全な状態が保てる段階。

「要観察」1:

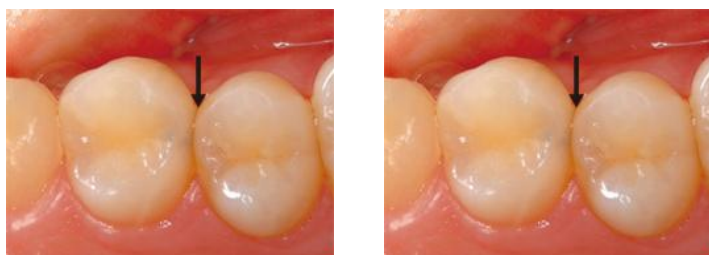
定期的な観察が必要で、積極的な保健指導と予防処置の組み合わせを行うことにより、状態を進行させないことが可能な段階。



学校での保健指導や歯科医院でのフッ化物塗布等の予防処置を定期的に受け8年経過した歯

「要精検」2:

医療機関での診断を受け、臨床的な対応が必要な段階。



むし歯の疑いがありレントゲン撮影で正確に診断できたもの

## (5) 事後措置

事後措置の如何により以後の結果に大きな違いが起こってきます

現在、学校での健診は、むし歯や歯肉炎の多発する時期にその発生リスクの高い生徒を見つけ出し、適切な保健指導と保健管理を実施していくことを主目的に行っています。そして危険因子のレベルの違いによって、保健指導や保健相談で対応する段階と、精密検査が必要なものに分け指導・勧告を行っています。



フッ素の利用や定期的な指導により初期むし歯が再石灰化し健全に保たれた場合



予防や指導を行わなかった場合

定期健診、フッ素塗布、予防指導等で健康なお口の状態を維持できるように努めてください。